

「映画化するのには終生の夢であった」——大林宣彦



少年は魂に火をつけ、少女は血に溺れる。

◎ 世界的カルト映画にして大林宣彦監督のデビュー作『HOUSE / ハウス』(77)より以前に書き上げられていた幻の脚本が40年の時を経て奇蹟の映画化。自分の命さえ自由にならない太平洋戦争勃発前夜を生きる若者たちを主軸に、心が火傷するような凄まじき青春群像劇を、圧倒的な映像力で描く。原作是三島由紀夫がこの一冊を読み小説家を志したという檀一雄の純文学「花筐」。尾道三部作をはじめ数多くの“古里映画”を撮り続けてきた大林宣彦が選んだ佐賀県唐津市を舞台に、唐津の魂「唐津くんち」が映画史上初の全面協力。窪塚俊介主演、満島真之介、長塚圭史、常盤貴子ほか。『この空の花』『野のなななか』に続く本作は、余命宣告を受けながら完成させた大林宣彦の“戦争三部作”の締めを飾る魂の集大成である。

◎ 1941年の春。アムステルダムに住む両親の元を離れ、佐賀県唐津に暮らす叔母(常盤貴子)の元に身を寄せることになった17歳の榊山俊彦(窪塚俊介)の新学期は、アポロ神のように雄々しい鞆飼(満島真之介)、虚無僧のような吉良(長塚圭史)、お調子者の阿蘇(柄本時生)ら学友を得て“勇気を試す冒険”に興じる日々。肺病を患う従妹の美那(矢作穂香)に恋心を抱きながらも、女友達のあきね(山崎紘菜)や千歳(門脇麦)と“不良”なる青春を謳歌している。しかし、我が「生」を自分の意志で生きようとする彼らの純粹で自由な荒ぶる日常のときは儚く、いつしか戦争の渦に飲み込まれてゆく。「殺されないぞ、戦争なんかには！」——俊彦はひとり、仲間たちの間を浮き草のように漂いながら、自らの魂に火をつけようとするが……。



窪塚俊介 / 満島真之介 長塚圭史 柄本時生 矢作穂香 山崎紘菜 門脇麦 / 常盤貴子

監督:大林宣彦 製作:辻幸徳(唐津映画製作委員会)/大林森子(PSC) 協力:檀太郎 原作:檀一雄「花筐」(講談社・文芸文庫) 脚本:大林宣彦/桂千穂 音楽:山下康介 撮影監督:三本木久城
2017年/カラー/DCP/アメリカンヴィスタ/169分 配給・宣伝:新日本映画社 ©唐津映画製作委員会/PSC 2017 [facebook.com/hanagatami.movie](https://www.facebook.com/hanagatami.movie) [@hanagatamimovie](https://twitter.com/hanagatamimovie)
公式HP▶▶ hanagatami-movie.jp

唐津市



映画の舞台となったのは、佐賀県北部に位置する「唐津」。

小説家・檀一雄、大林宣彦監督が魅せられたこのまちを、あなたも少し覗いてみませんか。

様々な表情を見せる玄界灘の海、500万本の黒松からなる「虹ノ松原」、2016年ユネスコにも登録された秋の例大祭「唐津くんち」、美しい田園風景、炭鉱町、城下町の風情、唐津焼と茶文化、伝統料理…。映画を彩る景色や文化を感じてください！

唐津市観光協会公式HP▶▶ karatsu-kankou.jp